

ARISE ジャパン 公開シンポジウム 「地産地防」で災害に強いコミュニティを築く

仙台防災枠組やSDGs達成の目標としている2030年まであと十年となりました。新型コロナウイルスの感染の拡大が世界各地で続く中で、気候変動に伴う異常気象や甚大な災害が頻発し、感染症と自然災害の「複合災害」となっています。災害からの強靱な回復力（レジリエンス）の重要性は高まるばかりです。

そうした中、東日本大震災からの復興を進める東北から「地産地防」という概念が発信されています。背景に「地域の防災力は、ハード整備だけでなく日々の暮らしの中で育まれるシステムによって高まる」ことへの気づきと、そのようなシステムに地域格差がある現状があります。そこから生まれたのが、防災力を高め続ける地域の暮らしの中のシステムの要素を洗い出し、マネジメントすることによって、災害に強い社会づくりを進める「地産地防」の概念です。世界標準化に向けた動きも開始されています。

国連防災機関（UNDRR）の民間企業グループであるアライズ（ARISE）ジャパンは、東日本大震災より10年経過した今年、オンライン公開シンポジウムを開催します。そこでは、仙台防災枠組が推奨する「全社会的なアプローチ（whole-of-society approach）」「事前防災を含む総合防災・減災」「地域に根差したアクション」をすべて含んだ概念である「地産地防」をテーマに、気候危機・SDGsの時代のまちづくりと企業の役割を考えます。

3月2日 火 15:00 – 17:00
(開室14:45)



Zoomオンライン開催

事前登録制
無料

参加申込み：オンラインにて受付（定員90名）
<http://bit.ly/arisejapan2021>

お問い合わせ：ARISE ジャパン事務局
arise.japan.secretariat@gmail.com

主催：UNDRR ARISE ジャパン
共催：国連防災機関（UNDRR）駐日事務所



後援：一般社団法人 日本防災プラットフォーム
一般社団法人 レジリエンス・ジャパン
推進協議会
一般社団法人 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン

15:00	開会挨拶	ARISE理事 国際航業株式会社 代表取締役社長	土方 聡
15:05	基調講演	仙台市における「地産地防」の教訓と実践 ー そこから生まれた防災ISOという提案	東北大学災害科学国際研究所長 今村 文彦
15:35	質疑応答		
小休憩			
15:45	ディスカッション	「地産地防」を可能にするまちづくり	
	モデレータ	国土防災技術株式会社 国際部事業企画課 課長	中村 清美
	パネリスト		
	合掌集落住民による防火・防災活動	白川村 観光振興課 産業振興課長補佐	尾崎 達也
	海と共に生きる観光防災まちづくり	伊豆市土肥温泉旅館協同組合 組合長	野毛 貴登
	業務中枢地区における防災まちづくり	一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区 まちづくり協議会 エリア防災推進委員長	中嶋 利隆
	ディスカッサント	東北大学災害科学国際研究所長	今村 文彦
16:45	コメント	UNDRRによる振り返りとコメント	国連防災機関（UNDRR）駐日事務所 代表 松岡 由季
16:50	総括と 閉会挨拶	ARISEジャパン 代表 観光レジリエンス研究所 代表	高松 正人
17:00	閉室	全体進行	ARISEジャパン事務局（国際航業株式会社） 阿部 嘉子